

「岡山リンドウ3号」の挿し芽増殖技術

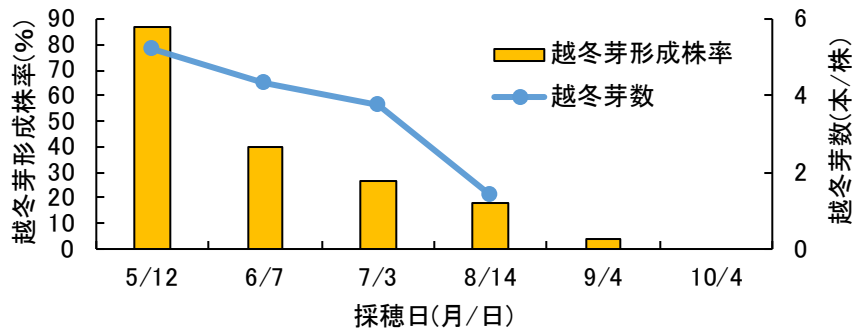


図1 採穂時期と挿し芽苗の越冬芽形成

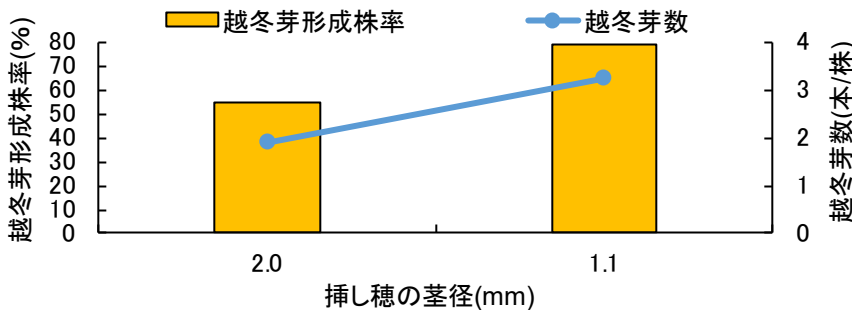


図2 挿し穂の太さと越冬芽形成

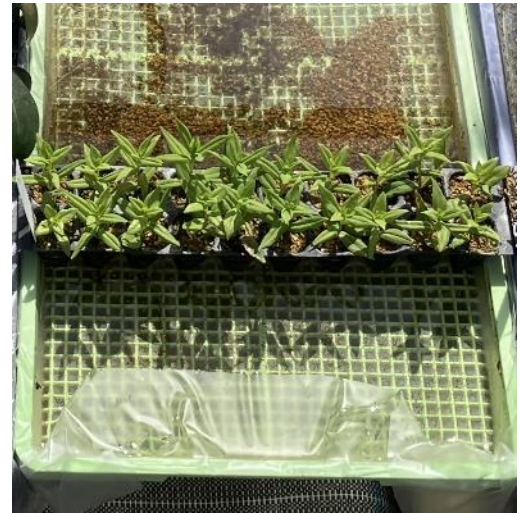


図3 湛水挿しの様子

開発のねらい

挿し芽は栄養繁殖系花き品種の重要な増殖技術ですが、切り花用リンドウでは越冬芽形成率が低い等の問題があり、実用化されていませんでした。しかし、近年、冷蔵挿し穂を用いて挿し芽を行うことで、切り花用リンドウの越冬芽形成が促進されることが明らかになりました。そこで、栄養繁殖リンドウ「岡山リンドウ3号」の冷蔵挿し穂を用いた挿し芽増殖技術の確立を目指しました。

新技術の概要

- 細い挿し穂を5月に採集・冷蔵して挿し芽すると、定植後の越冬芽形成が促進されます（図1、図2）。
- 湛水下での挿し芽（湛水挿し）はミスト灌水下での挿し芽と同様に用いることができます（図3）。湛水挿し時には遮光せず、定植直後から遮光すると越冬芽形成が促進されます。

活用場面

湛水挿しは、ビニルを敷いて湛水した育苗箱に、挿し芽したセルトレイを置いて行います。このため、ミスト灌水設備を持たない生産者でも、簡単に挿し芽を行うことができます。